

〔翻 訳〕

## 『スペクテイター』(56)

—第530号から第539号—

門 田 俊 夫

第530号 1712年11月7日(金曜日)

【アディソン】

美醜や誠実不実を問わず誰もが、  
 ヴィーナスのくびきに従わなくてはならない。  
 彼女は 私たちの苦しみを喜び、  
 もてあそんで笑うのだ。(ホラティウス)<sup>1)</sup>

結婚に対して辛辣だった人がなんらかの時点でからかっていた人たちの仲間入りをして、自分たちがからかいの的になることはよくあることです。私はこれまで早晚その報いを受けなかった女嫌いを見かけることはほとんどありませんでした。別人にとっては祝福である結婚が女嫌いに審判として降りかかるのです。コングリーヴ氏の『老独身者』は、このお手本として、機知とユーモアを存分に發揮して描かれたものです<sup>2)</sup>。要するに、一般に女性をからかうことで名を上げてきた人々は、往々にしてこの上なくつまらない女性を配偶者を選ぶことで立派な償いをするようになります。婚姻の神ヒュメンは自身の秘儀をからかう人たちに結婚で応酬するわけです。

女性に情け容赦なく辛辣だったわが友ウィル・ハニコームは、私が最近みなさんにお伝えした手紙で、百姓の娘と結婚することでご婦人方を大いに満足させました<sup>3)</sup>。この情報はこの前の郵便でわがクラブに寄せられました。テンプル法学院の学者は彼が乳しぼり女と結婚したことにとても前向きですが、私宛の手紙で、ウィルはこの件では顔色一つ変えず、配偶者についてまずまずの報告をして来ています。実を言いますと、この手紙を開封したとき、ウィルがそれまでの陽気さをなくしていることに気づき、何か変だと思ったのです。彼はこれまでは手紙の冒頭はいつも「親愛なる観察者」だったのですが、それを「わが立派な友」に変えており、末尾には省略せずに「ウィリアム・ハニコーム」との署名があったのです。要するに、この30年間以上にわたって資産家とみれば誰にでも求婚し、

1) ホラティウス『頌詩』1.33.10-12

2) コングリーヴ『老独身者』は、キーンがハートウェル役で10月10日、ドゥルーリー・レイン劇場で上演された。

3) 第499号、第511号参照。

会ったこともない女性に気に入られているのだと自慢していた陽気で無遠慮で自惚れの強いウィルが、とうとう平凡な田舎娘と結婚したのです。

彼の手紙を読めば、改心した道楽者の姿が伺えます。道楽者には夫の謹厳な品性が塗り込められ、わが友ウィルが女性に向かってさかんに口にしたおざなりの言葉が添えられています。とにかく、彼の語ることに耳を傾けてみましょう。

わが立派な友へ

貴殿およびほかの知人たちが、この30年間町でタバコの煙と色事の世界で暮らして来た私が突然、田舎暮らしをすることになったことを不思議に思っているのは間違いのないところだと思います。執事が何も言わずに逃げ出すようなことさえなかったら、私は今でも罪と石炭、つまり、遊惰な世界に身を浸していたに違いありません。しかし、先だって無理やり地所を見るために田舎に戻ってからというもの、とても田舎が気に入り、ここで死を迎えることにしました。私は毎日地所を見まわっています。そこで、手紙にはそよ風や木陰や花々や牧場やサラサラと流れる小川の音が欠かせなくなっています。貴殿がさかんに口にしていたのを耳にしたことがある風習の質朴さは、田舎には完全な形で残っており、私は大いに魅了されています。貴殿およびクラブのみなさんに、その一例として、私が最近ある借地人の娘と結婚したことをお知らせしなくてはなりません。彼女は誠実な両親の元に生まれました。彼女には持参金は何一つありませんが、多くの美德を備えています。彼女の振舞いには持って生まれた優しさと天真爛漫さがあり、顔にはういういしさがあり、容姿にも気取ったところは何もなく、会うたびに私の心を射ぬいたのです。そして、町や宮廷の金襴緞子の美女よりも、粗布を着た彼女の方が威力を発揮したのです。要するに、彼女は私の資産のよき相続人を約束してくれる女性です。かりに彼女によって子供たちに誤って誕生の贈り物と呼ばれているもの、つまり、高位の肩書と姻戚関係を残せないとしても、私は子供たちにもっと素晴らしい誕生の贈り物、つまり、強靱な体と健康的な気質を残したいと思っています。貴殿の立派な女性たちに関しては、私が彼女たちを知っているとお伝えする必要はありません。彼女たちのしとやかさは私の取り分でしたが、今はそうではありません。今後は誠実な人物として生活し、家族の長にふさわしい振舞いをするのを私の務めとしたいと思います。私が道楽者たちのからかいの対象となり、「結婚した結婚嫌い」<sup>4)</sup>としての扱いを受けることは間違いありませんが、そのからかいを受ける心積もりは出来ています。若い頃には人々に辛辣にあたってきました。本当のことを言いますと、当世風の胸躍らせる伊達男たちが急増していますので、「サロン閨房の男」<sup>5)</sup>としての私の地位はもはや持ちこたえられないと思った訳です。私が田舎に隠遁したためにクラブに空きができますので、私の代わりにわが友トム・ダパーウィット<sup>6)</sup>を入れて欲しいものです。彼は限りない情熱の持ち主で、町のことにも精通しています。私自身に関して

4) トマス・ダーフィー (1653-1723) の喜劇の題名。

5) アディソンはこの風習を第45号で風刺した。

6) 結婚を煉獄とみなしたトム・ダパーウィットは第499号、第511号にも登場。

は、申し上げたように、家族の分別をわきまえた長、立派な夫、そして面倒見の良い父親として、自分の身分にふさわしい生き方をしたいと思います。

敬具

ウィリアム・ハニコーム

第531号 1712年11月8日(土曜日)

【アディソン】

地球と海とはかない歳月を治める彼は、もっとも重要な席を要求する。これほど偉大でこれほど聡明なものに勝るものは何もない。(ホラティウス)<sup>1)</sup>

僭主ディオニュシオスに神は何かと尋ねられたシモニデスは、返事をするまでに考える時間を1日欲しいと言いました<sup>2)</sup>。1日過ぎると、彼はさらに2日要求しました。その2日が過ぎると、返事をしないで、さらに2倍の時間を要求しました。この偉大な詩人兼哲学者は、神性について考えれば考えるだけ、泥沼にはまり、答えを見つけられず頭が混乱してくることに気づいたのです。

賢人たちが理性の光を当てて神について練り上げた見解について考えますと、つぎのようになります。つまり、神は精神性について完成の域に達したあらゆるものを手にしているということです。私たち人間は精神的な極致について自身の魂に見出すこと以外には何一つ分かっていませんので、無限性をこの極致と結び付けます。そして人間の魂に宿る力は神の属性となります。私たち人間は場所と時間の中に存在しますが、神は空間の無限の広がり自身で満ち、永遠の存在なのです。私たち人間はわずかな力と知識を所有していますが、神は全知全能です。要するに、何らかの極致に無限性を付与することによって、私たちは自然の偉大なる支配者についての考えを形作るわけです。

考える人は誰でもそのように考えたに違いありませんが、これを立証するためにロック氏の『人間悟性論』から引用したいと思います。

「若し我々が無限の至上者に就いて我々の持つ観念を吟味するならば、我々はこの観念を同一の方法によって得るといふことを知るであろう、又神及び諸々の精霊の両者に就いて我々の複雑観念は我々が反省から受ける単純観念によって成り立ってゐるといふことを知るであろう、例へば我々は我々が自分自身の中に実際経験することから、存在及び持続の観念、知識及び力の観念、快楽及び幸福の観念、並びに我々が持つてゐる方が持つてゐないよりも良い幾つかの他の性質及び力の観念を得てゐるので、我々が、至上者に対して我々の作り得る最も適当な観念を形成しようとするとき、我々は上に挙げたやうな観念の一つ一つを無限性といふ我々の観念によって拡大し、そしてそれ等を結合することによ

1) ホラティウス『頌詩』1.12.15-18

2) キケロ『神々の本性について』1.22.60

て神といふ複雑観念を作るのである。』<sup>3)</sup>

精神的な極致は人間の魂に宿るもの以外に多々あるかもしれないというのではありません。しかし、私たちが何らかの極致を会得するなんてことはあり得ません。私たちはかすかな輝きと不完全な鼓動を感じるだけです。それゆえ、至高の存在である神が私たち人間の観念に入り込むこと以上の属性を持っているかどうか判断することは、この上なく僭越な振舞いとなります。人間の魂に刻まれない精神的な極致があるとすれば、それはすべて神性に属すことは確実です。

著名な哲学者たちの中には、魂は孤立した状態では、肉体と結びついているときには發揮出来ない新しい力が湧き上がるかも知れないと考えている人たちがいます。この新しい力が神性の他の属性と一致するかどうか、そしてその後、新たな驚異と崇敬の念につながるかどうか、私たちはまったく無知です。私がこれまでに申し上げたように、大いなる自然の創造者である神が本質の点においても程度の点においてもありとあらゆる極致を手に行っていることを黙認すべきです。私たちの思考方法にならった話し方をしますと、この点では、神に対する考えを人間が考えられる限り高いところまで押し上げても、神の実体には限りなく届かなくなってしまうのだということだけを付言しておきます。神の偉大さには限りがありません。神がお創りになられた最高位の被造物である人間は、ただ神を崇敬することが出来るだけで、神を理解出来るのは人間しかいないのです。

この点に関しては、シラクの子イエスの助言はとても公正で崇高です：「主は御自身の行ないによって目的を果たし、主のみことばによって万物は統一される。いかに言葉を重ねても主のみ業のすばらしさを語りつくすことはできない。一言でいうなら「主はすべてである」。主をたたえる歌をうたうにふさわしい才能はどこにあるか。主はつくられたすべてのものよりも偉大であるのだから。主はおそるべく、はなはだ大きく、おどろくべき力を持たれる。力のすべてをつくして主を尊べ、それでもなお主はあらゆる讚美をはるかに超えておられる。力をふりしぼって主の偉大さを宣べ伝え、うむことなくつとめよ。全力をあげてもなお到底およばないだろう。かつて主を見て、その御姿を描きうるものがあつたらうか。主を余すところなく讚美しうるものが一人でもあるだろうか。われわれは主のみ業のほんの一部を見たにすぎず、まだ多くのよりすぐれた神秘は残されている」<sup>4)</sup>。

私はここでは神について理性と哲学の光を当てて考えているに過ぎません。もし神の恵みのあらゆる驚異を見れば、啓示に頼らざるを得ません。限りなく偉大で輝かしい存在であるだけでなく、神の定めが限りなく善で公正だということが分かります。しかし、このことは実際には十分に考えることは出来ないものの、誰もが考えることですので、ここでは私たちが全知全能の神に払うべきいつもの崇拝と畏敬の念について触れるに止めます。私

3) ジョン・ロック『人間悟性論』第2巻第23章33節。この箇所日本語訳は、加藤卯一郎訳（岩波文庫、1940年第1刷1993年第16刷）を借用。

4) 『ベン＝シラの知恵』第43章第26節―第32節。この箇所日本語訳は、新見宏訳（旧約聖書外典、講談社文芸文庫1998年第1刷2005年第4刷）を借用。

たちはしばしば神に思いを馳せて生気を取り戻し、神の前では無私の精神で自身の卑小さと神の超越的な卓越さと完璧さについて瞑想すべきです。こうすることで、私たちの心には、私がここで推奨しています不変の途切れることのない畏怖と崇敬の念が刻まれます。これが現実には絶え間ないお祈りとなり、当然のことですが、魂に恥じらいを覚えさせることとなります。

これが私たちの中にある高慢や虚栄や自惚れの種をうまく取り除いてくれます。こういった種は、その思いが人々と神の間にある無限の距離に向かなくて、同胞に勝りたいと考える人たちの心に芽吹くものなのです。同様に、このことは信仰と徳高い行いによって私たちと神を結びつけたいという気持ちを刺激します。

神へのこういった習慣的な敬意は、とりわけ、私たちから取るに足らないことでも神の名を口にするという広く行き渡っている不敬な行為を追放することになります。

わが国の誉れであり、これまでの誰よりも熱心にかつ見事に神の御業を探求したある紳士の葬式で説かれた素晴らしい説教につぎの一節があります<sup>5)</sup>：「天と地をお創りになられた偉大なる神に対して、彼は私がこれまでに会った中で一番深遠な畏敬の念をお持ちでした。彼が神の名を口になさるときはいつでも口を止めるのでした。20年以上にわたって彼と昵懇だったある人から聞いたのですが、彼はとても几帳面だったので彼はいつもそうしていたとのことでした。」

ユダヤ人がこれほど偉大で不思議で聖なる名前に払った畏怖の念は周知の事実です。彼らは信仰の話にさえその名前を差し挟むことはしませんでした。そうだとすると、通常の怒りや浮かれ騒ぎや非常に場違いな激情の表現にこの恐るべき名前を用いる人たちのことをどのように考えたらいいのでしょうか。ごくありふれた疑問や主張、滑稽な話題にこれを引き合いに出す人たちのことをどのように考えたらいいのでしょうか。厳粛な偽証によって神を冒瀆する人たちのことは論外です。こういった恐怖や不敬を口にしようとするのは理性に対する侮辱となります。わけもなく神の名を口にするだけで、信仰は言うまでもなく神の光が完全に消されるに十分です。

第532号 1712年11月10日（月曜日）

【スタイル】

自分を傷つけるには無益で不適當だが、砥石の役を演じる。

人々の機知を研ぎ澄ませるのだ。(ホラティウス)<sup>1)</sup>

他人の長所を生み出すために熱心になることはとても誠実な行いです。私は自分がほかの誰にも負けにくいこの気質を持っていると言うことにためらいはありません。これは自慢するようなことではなく、努力すれば誰にでも可能なことなのです。他人の卓越に

5) ソールズベリ主教ギルバート・バーネットは、セント・マーティンズ・イン・ザ・フィールドで行われたロバート・ボイルの葬儀で説教をした。

1) ホラティウス『詩の技法』304-5

苦しむ屈辱を気にし過ぎますと、不本意さゆえに自分自身を軽蔑することになります。そして度が過ぎますと、賞賛に値する人々の名声と繁栄を助長することに熱心になることは今までにないほど大きな喜びとなります。これは、屈辱を覚えた克己の人物のふりをしていっているのではなく、野望を正しい方向に振り向けた人物だと考えます。私はこの上なく有能な人物の成果を苦勞して手に入れたと自負しています<sup>2)</sup>。彼はほかでもない新聞という手段を利用して、現代の誉れとなる若い紳士を尊敬に値する仕事へと駆り立てています<sup>3)</sup>。そして私も最大限の努力をして、無知、悪徳、愚行への関心を薄め、その代わりに、学問、敬虔、良識を植え付けようとしているのです。この誠意のお陰で、私は芸術と科学の取次人としての榮譽を授けられているのだと思います、ティッケル氏もポープ氏も、私のことをそのように考えているようです。実は、ティッケル氏は私を称える素晴らしい詩を送ってくれていますし、ポープ氏も、まもなく日の目を見ることを期待しますが、私に読ませようとして素晴らしい詩を同封して来ました<sup>4)</sup>。それまで、私は彼の思いを抑えることは出来ませんので、ハドリアヌスの辞世の言葉に対する彼の気持ちを掲載することにします。彼の言う事例の場合は私には判断できませんが、彼の主張に賛成することが多くあります。私が読んだ彼の作品の多くには、非常に優美で崇高な感情が減損することなく十二分に發揮されています。

#### 観察者殿<sup>5)</sup>

私は先日、学識のある人たち5、6人と同席しました。その場でたまたまハドリアヌス皇帝が死の床で語った有名な詩が話題になったのです。彼らは全員、この詩はこういった状況の皇帝にはふさわしくない陽気な詩であることに意見が一致しました。私はこの意見に異議を唱えざるを得ませんでした。私が思いますに、この詩は決して陽気なものではなく、死の間際に発せられたとても真剣な魂への独白だったのです。とても若いとき、世間でどんな解釈がされているか知らなかったとき初めてこの詩を読んだとき、私は当然のこととしてその意味で捉えたのです。「ああ、わが魂よ！肉体の愛すべき友である汝よ！今肉体を離れようとしているはかない汝よ！汝はいずこへ飛んで行くのか、いかなる道の領域へ行くのか。汝は震え、怯え、悲しげにしている。これまでの汝の機知とユーモアはどうなっているのか。汝はもはや冗談も言わず陽気でもない」。正直言って、これのどこに軽薄な点があるのか私には理解できません。ここには死に瀕する人にとって当然かつ明白な内省があります。この皇帝が異教徒であることを考慮すれば、魂の行く末に関するこの疑念は、決して思考の欠如のせいではないように思えます。ここには不死の信念に基づく率直な告白があることは言うまでもありませんが、彼にはそうとしか考えられなかったの

2) スティールのアディソン賛辞。

3) スティールはここではアンブローズ・フィリップス、ジョン・ヒューズ、フィリップ・フラウド、ポープのことを念頭に置いていた。

4) ポープの『名声の殿堂』は1715年まで出版されなかった。

5) ポープの手紙は1735年版に再録された。

です。私には、「浮遊する」とか「愛すべき」といった形容辞は、「場違いな陽気さ」ではなく、「親愛」と「心配」の表現に思えます。こういった表現は、カトゥルスや彼の後の11音節の詩の著者に見られるもので、恋人に対する最大の愛と優しさを表現するために用いられたものです。もし貴殿がハドリアヌスの辞世の言葉に対する私の考えが正しいとお考えなら、それを隠すことなく、スペクテイター紙に掲載していただけると幸いです。

敬具

スペクテイター紙の著者と考えられている方に寄せて<sup>6)</sup>  
 放縦な宮廷そして不謹慎な舞台において、いつまで戦争に  
 機知と美德を競わせるか。この卑しい目的に供された見本市に  
 魅了された若者たちは命取りとなる罠に向かってまっしぐらに進む。  
 有頂天の最中に、無視された苦痛がからみつき、  
 ちくちくした血管を通して汚れを吸い込む。  
 あなたの汚れのない考えを、牧師は動揺しないで聞き、  
 清らかな乙女は胸に留めるかもしれない。  
 風刺を浴びせられたけちな市民は、自らを笑い、  
 機知には害がないことに気づく。  
 未熟な郷紳は賭博師から免れ<sup>7)</sup>、  
 わが国のオークが救われたのもあなたのお陰だ。  
 浮かれた子爵は愛人に乾杯するのを恐れ<sup>8)</sup>、  
 浅かな法学士は3度目の矯正を自慢する。  
 踏み固められた道を馬鹿にしていた向こう見ずな愚か者は  
 雷に震え、神を信じていると告白する。

町に追放され、堅苦しい大学と術学的なガウンを呪っていた  
 愚かな若者は、あなたの名前に恐れをなして口をつぐみ、  
 週に3度ぎこちないラテン語を綴り、  
 ギリシア語を知っていると自負する。  
 ぶらついている輩よ、資産家を親とする輩は  
 評議員会での議論は優柔不断なものばかり、  
 最終的には軽蔑され、田舎に引き籠る。  
 最初は犬と一緒に、そして郷紳たちの大立者として、  
 無気力になって生意気者から愚か者へと転ずる、  
 若いときは伊達男で、年を取ると道化となるのだ。

6) これは初めて活字になったティッケルの詩。

7) ここでティッケルはヒューズの話に言及している。

8) ニコルスとチャーマーズはこの子爵をポリングブルックと見ている。

軽蔑された読者をあなたは勇敢な翼に乗せて星まで運び、  
光の野原に足を踏み入れる。  
あなたの高尚なテーマは、名声と天国と地獄、  
そしてジュピター自身が夢見たかもしれない幻なのだ。  
人は神の誇りが公正なときは祝福されて生まれるが、  
隷属状態に落ち込み、軽蔑を悪化させたのだ。

わが国のウェルギリウス<sup>9)</sup>が手を添えることができるのは  
そういった心得だけで、その友に値するのはあなたただけだ。  
借用した恩義は輝かしい恥辱であり、  
彼と分かち合うと、名声は倍加する。  
美の女王によって授けられる喜びに顔を赤らめ、  
アイネイアスは人とも思えない魅力で輝いた<sup>10)</sup>。  
ウジェーヌ公とマルバラ公は戦いに臨み、  
互いに、栄光と友情を張り合う。

この詩に命を与えていただきたい、そして、  
名声を求めて苦しむ詩神を責めないでいただきたい。  
つまらないテーマを扱うと埋もれてしまうのではと恐れている、  
凡庸な詩の中に紛れ込んで忘れられてしまうのではと。  
あなたに認められると、私の詩は今後も引き続き  
女性礼賛になると予言する。あなたの作品に混ざると、  
その生命は限りないものとなり、  
あなたに鼓舞されたということで守られるのだ。

そうでなければ貧弱な弱々しい新芽も、  
ジュピターの木がこれを引き受け、空高く持ち上げてくれる。  
新弟子からは、希望に満ちた活力が流れ出て、蕾を出し、花を開かせる。  
無名のこの植物は、自分のものではない生命と活力を  
借りて不死となるのだ。

#### 観察者元締めへ<sup>11)</sup>

ジョン・スライ氏は謙虚につきのことを明らかにしています。

当該のジョン・スライ氏への任命書を読みますと、彼の監視下にある人々は全員、まる

9) これはアディソンのこと。

10) ティッケルはオーストリアの若き君主に対するアディソンの記述に影響を受けたと考えられる。

11) 第526号参照。

で貴方ご自身が監視しているかのように、一様に礼儀正しく振る舞っているとのこと。

当該検閲官は、貴方の秘密の指示によって、グレート・ブリテン国内で力と能力を誇示するために重要な、気取った上向きのかぶり方をする事で目立つ人々のための帽子を準備していること。

当該検閲官は、頭の外形と内部に関わる貴方の助言と警告にしかるべき注意を払っていること。法曹界と医学界の人々の帽子は自分たちの聡明さに若干の生命を与えるために、少しだけ上向きで、軍人の帽子は強烈に目立っており、そして彼はこれの中間に位置する善良な人々のためにはよくあるゆったりとしたかぶり方を用意します。このため、彼は真の「優美な頭」の形と大きさを知るために知人の学識者に相談しそれに見合った帽子をこしらえています。

さらに貴方の検閲官によると、町の聖職者の多くは軍人のかぶり方をしているということで、貴方の指示を待っているとのこと。

この数日みなさんはとても礼儀正しい振る舞いであり、検閲官はそれ以上のことは言っていない。

第533号 1712年11月11日（火曜日）

【スティール】

「いっそ二人あげますよ、もし一人じゃ足りないのなら」というのが、若い方の返答。

「もし二人でもおいやなら、もう二人追加しますよ」ともね。

(プラウトゥス)<sup>1)</sup>

観察者殿

貴殿はしばしば子供たちに彼らの意向に反した結婚を強いる両親のひどい慣行について素晴らしい論考を発表なさっております。これ以上前置きをせずに、私自身のケースをお知らせし、貴殿のご判断に委ねたいと考えます。私の両親は、二人とも年老いて来ていますが、彼らの言う長子の私が結婚するのを待ち望んでいます。私の気持ちも彼らと同じですが、彼らの好みではなく、自分の好みで結婚すべきだと考えています。このために私は日々悩んでいます。なぜなら、近隣の娘さんの誰とも恋をしていないからです。有り余る寛大さを発揮して、私に4人の候補者を持って来ます。「ジャック、キャサリン夫人は立派な女性だよ、そうだよ、でも、少し年を取りすぎているな、彼女なら慎重なやりくりをするだろう」と父が口火を切ります。つぎに、母の番です。「ベティ夫人はすごくお綺麗じゃありませんこと、でも彼女お付き合いをなさらないし、情熱もありませんし、はつらつとしたところがありませんわ。彼女は話すときも表情にも生気が感じられないの。

1) プラウトゥス『スティクス』550行-551行。この箇所の日本語訳は、小林 標訳（ローマ喜劇集4、京都大学学術出版会、2002年）を借用。

でもそれだけに、彼女は気楽で優しく、扱いやすい人です」と。つぎに、老いた伯母が、(彼女は芝居を見るときはメガネをかけるような部類の人なのですが)、「素敵なドロシー夫人はどうかしら。私がどう思うかですって？あの人背丈は6フィート2インチには届かないと思うわ。そうね、あなたが好きなだけ冷やかせるわ。背の高さは立派で堂々としたものです」と大きな声を出します。「ねえ、ねえ、フィデリアも負けてはいないよ。フィディならあなたは気に入るに違いないよ。謙虚につくしてくれますよ。一番上の姉さんは年を取りすぎていますが、彼女は若すぎるくらいよ」と従妹が言います。「そうですね、パート。あなたはやっと22歳になったところで、フィディは半年経っても10代だし。彼女なんでも吸収出来るわ。よく気が付く人になるわ。多分、時には泣くでしょうが、腹は立てるようなことはありませんよ」と彼女は言うのでした。このように、私がほかの誰よりも気に掛けている結婚の件で、彼らはみんなして私のことを思ってくれます。もし私が誰かの名前をあげるとしたら、ある娘さんには確かにいいところがあります。観察者殿、貴殿には上述の兆しから見て、私が快適な生活をするようになるのがお分かりいただけます。もっと率直に申し上げますと、この3年間というもの、私はある若い娘さん(ミランダと呼ばせてもらいますが)に熱烈な恋心を抱いているのです。私はしばしば、このことを息子として精一杯従順に、だが恋する人のもどかしい気持ちで、率直に両親に打ち明けています。この3年のことを考えてみてください。この長い3年間に、私は言葉では言い尽くせないほどの不安とさまざまな苦しみを味わって来ました。ミランダの財産は私が言う財産に匹敵するのですが、彼女と私の親族同士が昵懇でないのです。それが困るのです。ミランダの人柄や機知や気性は申し分ありません。貴殿がとても格調の高い美の判定者であることは承知していますが、貴殿のお知り合いのいろいろな女性の中にも、ミランダほど好ましい人はいません。一言で言って、彼女はただの一度も不都合なことをしたことはありません。(かりに私が彼女のことをやりそこなっていると考えるとしても)彼女は自分自身が完璧であることが分かっていないのと同様に、私の欠点に気づかないときなのです。

敬具

ドゥーテラスタス<sup>2)</sup>

観察者様

貴方は最近町や田舎で意気揚々と貸し馬車を乗り回している野心的な若い紳士を非難することに大変な時間を割いていらっしゃいましたが<sup>3)</sup>、私は、その機会に時には馬車の内部で起こっていることを考えてくださっておればよいのと思っていました。最近エセックスからロンドンに向かう乗合馬車で一緒になった数名の人物の無礼と不作法にひどい目に会ったのです。私のお話することをお聞きになれば、御者席以外にはふさわしい場所のない紳士がいることがお分かりになられます。私は真面目な宗教教育を受けた娘で、その特性を維持しています。ところが、2週間前の月曜日、運悪くロンドンに向かったのです。

2) ドゥーテラスタスは、第506号のエラスタスとレティシアへの言及と考えられる。

3) 第498号、第526号参照。

私が馬車に乗り込むや否や、とても驚いたことに、紳士の身なりをした2人が、私が聞くに堪えないと貴方が思われる、二度と口にできない非常に下品な話を私に向けて来たのです<sup>4)</sup>。私は短い旅が早く終わって欲しいと願うしかありませんでした。申し上げますが、これは徳高く貞節な者にとって大変大きな迫害となります。貴方がこういったテーマを適切に処理するためには、もしいらっしゃればの話ですが、奥様かお嬢様がこういった状況に会われたと想像して見てください。すると、こういった騎馬兵をどう扱えばよいかお分かりになります。一人は大尉ということで、道中ずっと、不潔で忌々しい質問を投げかけるかみだらな歌を歌っていました。恥辱と憤怒で胸がはちきれんばかりになった私は、こんなことで耳や目を簡単に閉じてはいけないと思いました。しかし、これは一種の強姦なのです。強姦に殺人と変わらぬ共犯者がどうして存在しているのですか。貞節を凌辱することに寄与する人は誰でも死の苦しみを味わうべきです。これら恥知らずの悪鬼はそれに値するものと私は心から確信します。このケースに貴方のお力を貸していただけませんか。望ましい結果をもたらしてくださらない場合には、私はもう貴方の新聞は読みません。私の馬車賃まで持つ無礼な若者に、私を苦しめていい権利はないはずです。どうか、私たちは最もか弱き女性であり、身を守る手段がなにもないことをお考えください。女性を闘う気にさせることは、とりわけ女性が騒ぎ立てる力がないときに、その人の前で下品な話をすることと同様に、紳士らしいことだと思います。貴方が人々にお知らせするのにふさわしいと思えるお話をさせてください。私は軍隊の紳士のことをとてもよく思っており、共に夕食をしようとして、10人か12人を招いた紳士と面識がありました。彼は同時に、軍人のマナーや素行にとっても辛辣な友人2、3人を招待したのです。たまたま軍人の一人が自分の連隊に入隊したばかりの大尉二人を同行していました。この二人は冒頭でとてもみだらでその場向きの話をしてみんなの気を引きました。主人役の紳士の混乱は貴方には容易に想像がつかます。友人たちがとても不快に思っていることに気づいた彼は、偉人の話をしたいと申し出ました。彼の話はつぎのようなことでした。ロック氏（彼のことは貴方がしきりに引き合いに出しておられることを知っていますが）は、ハリファックス卿、アングルシー卿、そしてシャフツベリー卿たちの食事に招待され、食事が済むとすぐにカードになりました。カードゲームでは常に勝ち負けで気持ちが高まるものです。ロック氏は窓辺に引き下がり、物書きをしました。すると、アングルシー卿が何を書いているのか知りたがりました。「いえいえ、昨夜は現代の最も偉大な方々との会話でどんな喜びと向上が得られるかと期待して眠れなかったのです」と彼は答えまし<sup>5)</sup>。この返事は明確に彼らの心に突き刺さったので、もし彼がその紙を暖炉にくべてくれれば、自分たちは喜んでゲームはやめてカードを燃やすと言いました。この話によって、二人の若い大尉はとても厳しい立場に追いやられました。上官の同意もあって、彼らは狼狽して帰って行きました。貴方は長い話を嫌っていらっしゃることは承知しています。よろしければ、短縮な

---

4) 第132号、第242号参照。

5) この話はジャン・ル・クレールのもの。

さつても構いません。でも、私はこの話には教訓があると思います。

貴方は観察者であると同時に名高い修理工だとお聞きしています。それゆえ、貴方の腕前を存分に発揮なさって、男女を問わずすべての慎み深い人たちのために、こういった無礼で厚かましい連中の口を封じる南京錠を作っていただきたいと思います。さらに、女性の表情を大切に、その結果、これを無視しない慎み深い人は今後旅をするときには必ずポケットに携行するという布告を発布していただきたいと願っています。賢明な観察者様なら南京錠を作っていただけだと思います。また、価格2シリングの貴紙に指示と一緒にその告示を載せてください。さらに、ある人物が上記の罪を犯したと思われる場合は、被害者はその告示を顔面に突き出し、人前でそれを読み上げるように要求できるのだということを明らかにしてください。該当者は非難に立ち向かうことができるほど鈍感であるに違いありません。罰則規定は貴方にお任せいたします。

敬具

ペナンス・クルーエル

第534号 1712年11月12日（水曜日）

【スティール】

なぜなら、豊かになると分別がなくなるからだ。(ユヴェナリス)<sup>1)</sup>

観察者様

私はとても裕福な両親の19歳になる一人娘です。私のこれまでの人生は愛情に包まれたもので、私の教育にはほとんど費やされることはありませんでした。おそらく、私には女性としてそして私の地位にふさわしい知識を得たいという並々な願望があります。しかし、私が思い起こす限り、私に関する議論はそれが子供にとってふさわしいことかどうか、あるいは、しかじかの食べ物や娘にとって体に良いかどうかということだけでした。これは体に悪い、これは肌に悪い、これは目に悪いといった次第でした。私が10歳からこの年まで土の上を歩いたことがないと申し上げても、突飛なことを言っている訳ではないのです。思い起こす限り、場所を移動するときは、いつも馬車か椅子かごだったのです。私の教育係りは誰もが、私の申し上げる有名なお話やしかじかの場面での女らしい振り舞い方を口にするに留まります。一人前の年頃になった今でもこの状態が続いています。15歳になってからというもの、私は別のやり方で虐待されています。実は、安全に私に話しかけることが出来る人が誰もいないことに私は耐えられないのです。わが家には良識のある人たちが頻繁に訪れます。その人たちと話を始めると、私は進んで質問を投げかけますが、はつらつとした眼差しが何かのせいで話を中断させられるのです。女性の話しかける特殊な言語があるのです。第一級の育ちのよい人だけが、(こんな人はめったにいませんし、お近づきになることもありませんが)、女性を意識しないで話しかけることが出来ま

1) ユヴェナリス『諷刺』8.73-74

す。紳士と呼ばれる人たちの多くは、どんな話題でも、私がお話することは出来ません。私がお話をしようとするれば必ず、誰かが「おやおや、確かに、誰某さんはそれに関してはとてもよくご存知である筈です。みなさんが彼女の楽しみと情報に助け舟を出すのです」と言い出します。私はとても端麗なものですので、私に接近する人たち全員を傷つけてしまいます。また、とても聡明ですので目新しい通知は必要としませんし、とても育ちがいいので知り合いからは愚か者の扱いを受けます。なぜなら、まるで私が友人か仲間でもあるかのように、誰も返事をしないのですから。何卒、美人で財産のある私たちを貴方の考察の俎上にお加えいただき、心にもないお世辞を言わせないでください。生意気なお手伝いがいるのですが、彼女にはずる賢いこの嫌な性質が授けられています。最初、私は彼女の言うことはすべて馬鹿げていると思って気持ちを晴らしていました。彼女は田舎娘で、生まれた地方のなまりで、みんなは御主人のことをこの上なく純粋な情熱と無垢な心の持ち主だと思っていると私に向かって言うのでした。そして、彼女は私が粉屋を自殺させ、その後で二人がよく出会っていた小麦畑まで歩いて行ったシスリー・ドブソンという人とそっくりだと言いました。こういったことのほかに、このずる賢い生意気な娘は、私の行く手に手紙を広げたり、手袋に短い手紙を入れたりして、素知らぬふりをすることが出来ます。生まれてこの方、私は誰からも私にふさわしい扱いを受けたことがないのです。私が楽しみにしている本がなかったら、私は今常識というものにはまったく無知であった筈です。貴方が時間を割いてこういった場合の振舞いのルールを定めていただく価値があります。そして、ほかの人たちだけでなく私たち女性が誠実で率直なお返事を期待しているのだと伝えていただきたいと思います。私の様子がよく、いい顔色をしており、美しい盛りだからということで、なぜ私の行ないが惑わされ、私に美と財産という強みがある以外には何も悪いことをしていないのに、善悪の判断を混同させられなくてはならないのですか。上述した人々が私たち女性に払う愚かな敬意とか、また別の人々からは全く無視されるといった理由で、身分のある私たち若い女性の会話は、悪徳とは言いませんが、無知と虚栄以外の何物でもなくなってしまいます。すべて貴方の観察者としての知恵に委ねたいと思います。

敬具

シャーロット・ウェルシー

ウィルコーヒーハウスにて

前略

これを掲載していただければ、紙面の埋草になります。貴殿の思索のひとつにあるイザヤ書の言い換えはポープ氏の書いたものなのかどうか、お尋ねします<sup>2)</sup>。その場合、適切な間隔を取って末尾に挿入してもう一行お続けください。

草々

エイブラハム・ダパーウィット

---

2) 第378号参照。

ダバーウィット氏へ

喜んで一行追加しました。適切な間隔を取りました。あの素晴らしい作品はポープ氏のものに間違いありません。

草々

前略

小生は勤勉で運の良いシティーの裕福な食料雑貨店主でしたが、ひとり者でした。ご承知のように女性はいます。特に、ある女性が小生の店にやって来たのです。小生は出来ることならと思いましたが、彼女は食料雑貨店の妻になってくれないのではと心配しました。しかし、小生は効果的な口説き方を思いつき、小生が売値よりも安い価格で購入できるように、彼女に仕入れ値より安い価格で売ったのです。ご想像通り、彼女は足繁くやって来ました。そして、彼女は小生が感謝すると思っ、大勢のお客を連れて来て同じ価格で売らせるのでした。是非ともお考えいただきたいのですが、食料雑貨店は立派な生計を売るための仕事であり、お金を稼がなくてはなりません。結局、小生が愛を告白し、彼女が結婚したときには、小生は破産寸前の状態になっていたのです。小生はぎりぎり自活できる状態でした。そして今では、お客さまをなくして金持ちになりたいと思っていますところ

草々

ジェレミー・コミット

観察者様

私は貴方がかつて触れておられた偶像で、コーヒーハウスの経営をしている者です<sup>3)</sup>。私が提供しなければならない機会や経験するしつこさについては、貴方にお伝えする必要はないものと思います。ところが、まるでブションを包囲したフランス軍のように<sup>4)</sup>、私をぴったり包囲する紳士がいるのです。生真面目な彼の行動は慎重で、定期的な接近は立派な技師の印です。彼は弁護士ですので、弁が立ちます。とりわけ、ウェストミンスターでそれを発揮する機会が少なくなってからは、その分私を相手にする時間が増えています。

この場合、弱い女性に何が出来ますか。私は喜んで降伏します。彼も私も無条件降伏となります。一方、私たちが話しているとき、私たちのいくつかの関心は無視されます。彼の包囲が強くなるにつれて、私のお茶は薄くなります。彼が私の店で弁護する間、彼のもとには生活保護の相談以外は誰もやって来ません。観察者様、厳しい条項を要求しないこと、そしてまた、異常な願望を抱いて善意に反しないようにと彼に助言をしていただけませんか。もし二人の考えが一致したら、出来るだけ速やかに、正式に、コーヒーハウスかウェストミンスターで身を固めることにします。

敬具

3) 第87号参照。

4) この要塞は1711年9月マルバラに屈していたが、1712年10月4日ヴィラールが奪還した。

ルシンダ・パーリー

ジョン・スライ氏からの覚書<sup>5)</sup>

監視下の東およそ660フィート、西165フィート圏内は、まずまず整然としている。しかし、関所<sup>6)</sup>を超えてストランドに入ったり、シティーに向かってテンプルバー内に入ったりすると、以前と何も変化はない。それゆえ、多忙な時間帯には、取引所とウェストミンスター間に巡回の張り番を配置し、貴殿あるいは部下まで時々報告させることを提案する。指示は以下の通り、スライ氏は、役人が行動方針と道徳に責任を負うなら、その役人を指名すること。

第535号 1712年11月13日(木曜日)

【アディソン】

希望は制限しなさい。(ホラティウス)<sup>1)</sup>

第471号では希望一般に関するテーマにしました。本号では世俗的な目的に誤用され、人生における多くの悲しみや災いを引き起こす中身のない愚かな希望について考えます。

私たちは大きく懸け離れたことに希望を抱くべきでないというのは、ホラティウスが何度か説いている教えです<sup>2)</sup>。人生の短さと不確かさが、そのような希望を非現実的で馬鹿げたものにしてしまいます。私たちとその後に到達する目標との間には、目に見えない形で死が横たわっています。ある人物が生きて目に見える幸福を享受する場合に、1万名の人がその道を閉ざされます。

同じく不幸なことに、一つの希望が消えるとすぐに、別の希望が湧き上がります。私たちは何らかの楽しみを手に入れると、幸福で満足したと思いがちです。だが、空虚さあるいは持って生まれた心の動揺のために、一つの目的を達するとすぐに、別の希望へと向かいます。私たちは常に遠く眺望の終端の背後にある人目を引く新たな景色を発見します。

以上の熟慮から得られる当然の結果は以下の通りです。まず、私たちはあまりにも懸け離れたことを希望しないように注意すべきだということ。つぎに、希望の対象が達成したときそれが理にかなったものであるかどうか、命がそこまで延びた場合に、達成可能なものであるかどうかを十分に考慮すべきであるということ。あまりにも懸け離れたことを希望すると、それに向かっていく途上に死によって中断させられることがあります。重要性を十二分に考慮しないことを希望すると、達成したときの喜びよりも失望の方が大きくなります。獲得しそうでないことを希望すると、私たちの行動や考えは無駄になり、人生は実際よりも大きな夢と幻になってしまいます。

5) 第526号、第532号参照。

6) 第498号参照。

1) ホラティウス『頌詩』1.11.7

2) ホラティウス『頌詩』1.4.15-16, 1.9.11など。

人生の不幸と災難の多くは、何らかの点の考慮不足から生じます。不幸や災難は陽気な恋人たちが日々破局を迎える、また、いつの時代であれ破産者や政治家や錬金術師や企画者を取り残される岩礁なのです。激しい妄想や遠大な考えに取りつかれる人は、遠くに見える光り輝くものに目を取られて近くにある幸福を見逃し、派手で表面的なものに目を取られて堅実でしっかりした幸福をないがしろにし、達成できないことに気を取られて手の届く幸福を軽蔑しがちです。希望は長く永続的な生活のための計画を立て、架空の至福という点に向かって押し進み、不可能なことをつかもうとします。その結果、人を極貧や破滅や屈辱へと陥れます。

私がここで言っていますことはアラビアの物語への教訓として役立つかも知れません。この物語はガラン氏のフランス語訳から見つけました<sup>3)</sup>。この話には非常に突飛ですが自然の素朴さが伺えますので、私同様、読者もとても気に入る、時々心に浮かぶ希望という楽しみについて考えると、自分の希望もペルシアのガラス商人の親戚だと考えるのは間違いのないと思います。

この物語によると、アルナスチャーは大変な怠け者で父親の存命中は何の仕事にもつきませんでした。父親が亡くなったとき、父親が彼にペルシアのお金で100ドラクマ残しました<sup>4)</sup>。アルナスチャーはこのお金を最大限に利用するために、ガラスや瓶や陶器に費やしました。彼はこれらの品を蓋のない大きなかごに山積みにして、ちっぽけな店を探し出してそのかごを足元に置き、お客が来るのを期待して壁にもたれかかりました。この姿勢でかごに目をやったまま座っていたとき、彼は一連のとても楽しい思いに駆られました。彼がつぎのように独り言を言っているのを隣人の一人が漏れ聞いたのでした。彼は「私は有り金全部の100ドラクマを卸商に使った。これを売ればすぐに200ドラクマになる。その200ドラクマは間もなく400になり、そのうちに4千ドラクマになる。4千ドラクマが8千ドラクマにならない筈はない。1万になったらすぐに、ガラス商はやめて宝石商になる。そして、ダイヤモンドや真珠やその他さまざまの宝石を扱うのだ。望むだけのお金が手に入ったら、土地と奴隷と宦官と馬つきの最も豪華な家を購入する。そして、愉快に過ごし有名人になる。しかし、そこで終わらせず、10万ドラクマ手にするまで商売は続ける。こうして10万ドラクマ手に入れたら、私は王子と呼ばれてもおかしくない立場になり、結婚相手として宰相の娘を要求するのだ。宰相には娘の美しさや機知や分別やその他優れた資質があると並べ立ててね。同時に、宰相には、結婚した日の夜に金貨千枚をプレゼントするつもりだと知らせるのだ。宰相の娘と結婚したらすぐに、娘には金で手に入る最も若くて優秀な黒人の宦官を10人買ってやるのだ。その後、大勢の供回りを引き連れて義父を訪ねなくてはならない。そして、娘のことを考えれば当然そうなるだろうが、義父の右側に席が設けられたら、義父に約束した金貨千枚を渡し、その後で、彼がとても驚くのだが、私は約束を守ります、いつも約束以上のことをするので、とさりげなく言いながら、さ

3) アントワーヌ・ガランが1704-17年にパリでヨーロッパ最初の翻訳を出版した。

4) 古代ギリシアの通貨1ドラクマは約7.5ペンスに相当したとのこと。

らにもう千枚渡すのだ。

妃を家に連れ帰ると、愛と戯れに浸る前に、彼女に私に対する当然の敬意をもたせるために細心の注意を払う。このため、彼女を部屋に閉じ込め、私が部屋に入るのはほんの短時間に留め、二言三言話しかけることにする。お付の女たちは、私がつれないためにご主人様は悲しみに沈んでおられ、優しく抱擁し、そばに居させて欲しいと涙ながらに懇願なさっておられます、と言います。しかし、私はそれでも容赦せず、一日目の夜はずっと彼女を無視するのだ。私がソファに座っていると、彼女の母親が娘を連れて来ます。娘は涙を浮かべて私の足元にひれ伏して、自分を迎え入れて欲しいと懇願します。そうすると、彼女に私に対する徹底的な畏敬の念を刻み込むために、私は立ち上がり、彼女がソファから数歩離れたところに倒れるくらいに、彼女を足蹴にするのだ」と言ったのです。

アルナスチャーはこのような奇想天外な幻覚に完全に飲み込まれてしまい、幻覚に出て来た足蹴を自制することが出来ませんでした。その結果、不運にも彼の壮観の基盤であった割れやすい商品を入れたかごに襲い掛かり、蹴りあげてしまい、商品は粉々になってしまったのです。

第536号 1712年11月14日（金曜日）

【アディソン】

ああ、本当はプリュギア女なのだ。男ではないのだから。

（ウェルギリウス）<sup>1)</sup>

先日、書籍商の店にいたとき、年の頃18歳くらいの綺麗な若い娘さんが馬車から降りて来て、私のそばをさっと通り抜け、店の人にカウンターの端まで来るようにと合図しました。そこで、彼女は注意深い表情をして彼に何か耳打ちをするとともに、手紙を一通渡しました。手紙を渡した後、扇の先端を手に押し付けたまま、残りの伝言をして立ち去りました。彼女が話をしているとき、書籍商から私が彼女の愛読している短い顔をした人物だと知らされて、彼女が赤面して肩越しに私を見ているのに気づきました。私のそばを通りかかったとき、美しい盛りの彼女は私に微笑みかけて、膝を曲げてお辞儀をしました。彼女は私に返礼をする余裕を与えず、急ぎ足で店を出て行きました。そして従僕たちに行先を告げて再び馬車に乗り込みました。彼女が行ってしまうと、書籍商は「聡明な観察者様」と宛名が書かれた手紙を差し出しました。書籍商によると、先ほどの若い娘さんが私に渡していただきたい、そして自分だけでなくお茶の席に集う友人たち全員が喜ぶので、速やかに新聞に掲載して欲しいということでした。そこで、私は内容のいかんにかかわらず掲載する積りでその手紙を開封しました。たとえ、男性の読者が辛辣で気に入らないとしても、筆者の綺麗な顔を見ていたら、彼らも私同様にお気に召していたことは間違いないと確信した次第です。

1) ウェルギリウス『アイネーイス』9.617

観察者様，1712年11月，ロンドンにて

貴方はいつも有益なヒントとか提案を喜んでお聴きにいただけます。そこで王国で最も怠惰な人たちのこともそうなさるものと信じています。私の申し上げたいのは、「女性に人気のある男」という名で知られている殿方、つまり、伊達男のことです。観察者様、こういった洒落者は男らしい仕事をするために存在しているのではなく、また、仕事がないために婦人と同じように蒸気のような存在であることに気づいていらっしゃいます。さて、私の申し上げているのはつぎのことです。とても楽しい気晴らしだった編み細工が再び流行していますので、感心する婦人に役立つものとしてこれをこういった殿方にお勧めいただきたいのです。これはどんなゲームあるいはどんな気晴らしにも矛盾しませんので、芝居小屋でも馬車の中でもお茶の席でも、要するに、婦人のために出かけるどんな場所でも可能ですから、(ただし、教会だけは別です。誤解を避けるためにしてはなりません)、簡単にこれに従うでしょう。私たち女性から見ると、これは仕事とは無関係に伊達男を進んで加わらせる多くの長所があります。白い手とダイヤモンドの指輪を大いに引き立てますし、考えや舌だけでなく目もそれまで通り自由に使えます。要するに、あらゆる点において、編み細工はとても適していますので、これ以上力説する必要はございません。この人のためにと思って作った自分の作品を美人が房飾りにつけているのを見ると、編み細工をする殿方は大いに満足するのです。観察者様、私はこういった殿方が出来ることを思いついたことを心から喜ばざるを得ません。なぜなら、王国のかなりなメンバーが(数のことを言っているのですが)無用な存在であることは悲しいことですから。今回はこれ以上貴方を煩わせることはせず、私は貴方の読者であり、いつも貴方の崇拜者であるとだけ申し添えておきます。

シー・ビー

追伸：こういった殿方が仕事に入るのが早ければ早いだけ結構なことです。今は、房飾りが有り余っているのです。

つぎに、読者には、まだ触れたことはないと思いますが、世間によくある一団の人たちの様子を提供したいと思います。

観察者殿

貴殿は最近、夫婦愛についての的を射たことをお書きになっておられたので<sup>2)</sup>、つぎは幸福ではなくむしろ利害への関心から生じるあらゆる行為をやめさせていただくことを希望します。認めざるを得ませんが、わが国の高潔な若いご婦人方の大半は、「露払い」<sup>3)</sup>や一般に「靴べら」<sup>4)</sup>のように使用する端役の取るに足らない連中は数多く抱えているのですが、ほんのちょっとした激励で彼らを抱えるために、真面目な人たちの指示にすぐ同意します。露払いや靴べらというものは、「足の寸法を知る」<sup>5)</sup>ためでなく、適切に刺激し駆り

2) 第525号，第528号参照。

3) 「露払い」の英語は whifler でサミュエル・バトラーの『ヒューディブラス』に登場する。

4) 「靴べら」の英語は shoeing-horn で、サミュエル・ジョンソンの辞書にはこの箇所が引用された。

立てるためだけに用います。分別のあるすべての家族がいざというときの場合にこういった手先を何人か抱えていることはこの上なく便利であり、あらゆる伊達男は靴として受け入れられる前に、自分が靴べらであるとの証明書を提出すべきだというのが、謹厳なマツチウエル夫人の意見です。必要なら名前を上げることが出来ますが、ある婦人は現在、彼女の新調の靴の数よりも多くのサイズも地方も皮膚の色もいろいろな靴べらを持っています。私は、数年間靴べらとして使用して、役に立たないと分かって、ついに靴に鞍替えさせた女性を知っています。私は、貴殿の友人のウィリアム・ハニコーム氏は結婚するまでは、放り出された靴べらだったのではないかと考えています。私自身はどうかと言いますと、この20年以上に渡って、名うての靴べらだったことを率直に認めなくてはなりません。実を言いますと、彼女に言い寄ってくる人が大勢いましたが、私はいつも自分が彼女の店で最高の靴だと思っていました。そして、彼女が結婚する1か月前になって初めて、自分が何者であるか分かったのです。あやうく悲嘆に暮れるところでした。そして、疑念が起こってきました。私が言い寄ったとき彼女から冷たくあしらわれ、自分は靴べらに過ぎなかったのだと思い始めました。その時、生来男たらしのわが愛する人は、私に向かって、私が心気症を病んでいるのであって、おそらく自分のことを卵か小さな土瓶のように思っているのでしょう<sup>6)</sup>、と言ったのです。しかし、すぐ後で彼女は私が自分のことを勘違いしていなかったのだと伝えて来たのです。不幸な靴べらの生涯について詳しくお伝えしたり、私の苦しみについての長々とした憂鬱な話をお伝えしたりすると、貴殿は退屈なさるに違いありません。あれこれ考えて見ますと、どんな場合に間違いなく靴べらの使用が許されるのか、そしてまた、25歳以下の娘あるいは寡婦になって3年にならない女性がこの特権があると断言することが許されるのかを決めることは、当然このテーマではその他厄介なことが降りかかりますが、観察者としての貴殿にふさわしいことだと考えます。

敬具

第537号 1712年11月15日(土曜日)

【ヒューズ】

私たちは彼の子孫なのですから。(アラートス)<sup>1)</sup>

前略

人生の重要な場面では、高位の人たちに自分の血統や資質やどのような期待を受けて生まれたかを思い出させるのが通例です。彼らは自分たちに何がふさわしいかを考慮して、さもしい仕事から手を引き、賞賛に値する仕事へと仕向けられることがあります。これによって高貴な生まれは美徳の道へと転じ、当然その報いと考えられる美点を生み出すこと

5) 「足の寸法を知る」の英語は to know the length of the foot で、「人の弱点を知る」の意で17世紀に登場する格言。

6) 「小さな土瓶」の英語は pipkin で、自分を卵とか小さな土瓶に見立てるのはうつ病の兆候とされた。

1) アラートス『現象』5。アラートス (c. 315-c. 245 B.C.) は小アジアキリキア出身で、天文や天候を扱った叙事詩を書いた。詩の一部がキケロたちによりラテン語に訳された。

になります。

同様の理由から、貴殿がいくつかの思索で「人間性の威厳」<sup>2)</sup>について論じられたのだと私は想像します。ところで、これが論駁されている説であることに貴殿がお気づきになっておられない筈はありません。人間性についてとても変わった見方をする著者がいますし、美德の欺瞞性について語られた箴言集もあります<sup>3)</sup>。これに関する考えは、普通、その著者の気質や性格の色合いを帯びるものです。政治家は人々の最も輝かしい行為を術策や下心に変えることがあります。不満や拒絶あるいはひどい扱いに誘発される人たちは、自分たちの不機嫌を哲学と勘違いしがちです。放蕩者や同胞の中で目立つことができないと考えている人々は、自分たちを非難していると思われる美点はすべて引きずりおろします。風刺作家はひたすら欠陥だけを描写します。こういった人々から、イタリア人がカリカチュアと呼ぶ戯画で描写される人間の下絵を入手します<sup>4)</sup>。戯画での技は容貌がゆがんでひどくなっているのですが、本人の際立った類似点を保持することにあります。そこで、とても感じのよい美女もこの上なく忌まわしい怪物に変えられてしまいます。

最良の人間を最低の人間と同じように扱うことはとても不実なことです。人間全体の品位を貶めることになるからです。こういった方法は人々に対する良い評価を取り除くだけでなく、純真の大いなる守護者であり、美德の源である人への敬意を破壊することになります。

実際、人間には美と醜、賢明と愚劣、美德と悪徳の驚くべき混交があるのは事実です。こういった不均衡は数多くの人たちに見られます。そして、いくつかの例あるいは時として、個々人が自分に不釣り合いなことをしますので、人間は全被造物の中で最も揺れ動く矛盾した存在であるように思えます<sup>5)</sup>。そこで、人間性の威厳に関する道徳の問題は、一見すると、双方の主張が同等の力を持っているように思える自然哲学の厄介な問題に見えます。しかし、これを行為に関して検討するとき、適切な光を当てていると思うのですが、パスカル氏の素晴らしい考察を借用したいと思います。

「人間に対して、彼の偉大さを示さないで、彼がどんなに<sup>けだもの</sup>獣に等しいかをあまり見せるのは危険である。卑しさ抜きに彼の偉大さをあまり見せるのもまた危険である。どちらも知らせないのは、また更にもっと危険である。だが、彼にどちらも提示してやるのはきわめて有益である。」<sup>6)</sup>

私たちの内部にどのような不完全さを抱えていようとも、それが現状に一致している限り、不完全さを矯正するのは信仰と美德の務めなのです。一方で、私たちが死によって不

2) これは、タトラー紙やスペクテイター紙に何度も扱われたテーマ。

3) ニコルスによると、ラ・ロシュフコーだということだが、おそらくジャック・エスプリと考えられる。

4) OED がカリカチュアをこの意味で引用した最初の例。

5) 第162号参照。

6) パスカル『パンセ』第1章第7節（ラフユマ版）。この箇所日本語訳は、前田陽一・由木 康訳（中公文庫、1973年初版、2012年32刷）を借用。

完全さのすべてを払拭すると考えることは、寛大な人たちにとって少なからぬ励みとなります。ユダヤ人が「ああ王よ、永遠なれ」と言って近づいたときのあの崇高な挨拶は、病氣と貧窮に苦しめられている最底辺の見下された人々に向かって発することが出来ます。魂の不滅を信じる人は、人間性の威厳に対する主張、および、それにふさわしい行為を強力に鼓舞することを必要としません。

当然、私は以前の手紙ですでに触れたことがあるテーマの意見を意識しています。ここで、「老齡」に関する書物の結末部分でキケロが述べている考えを思い起こすと嬉しくなります<sup>7)</sup>。キケロの著述に精通している人なら誰でも、大カトーが話し手として、スキピオとレリウスが聞き手として登場することを思い出します。この立派な人物は極度の老齡であり、今にも死にそうになっていますが、来世を待ち望み、思いは自らの不滅の部分、死後の存在ということに向かっていると描写されます。キケロの考えの一部を引くことにします。貴殿は以前に理性とキリスト教の教義双方にふさわしい魂の不滅に対する意見を述べられたことがありますので、貴殿の読者はローマの華麗な雄弁の中に、同じように偉大な真理がふんだんに輝いているのを知って気を悪くさらないものと私は信じます。

「これは私の固い信念なのだ。魂はとても活発であり、過去の記憶や将来への不安を抱えており、幾多の技や科学や発見が詰まっているので、こういったことすべてを保持している存在が死滅するなんてことはあり得ないのだ」とカトーは語ります。

死の直前の大キュロスについて、クセノフォンはつぎのように描写します。「最愛の子供たちよ、私がお前たちのもとを離れたからといって、私がもはや存在しないと思っはならない。私が存命中でも、私の魂はお前たちに見えなかったのだということを忘れてはならない。だが、私の行為によって、お前たちは魂が私の体の中にあることに気づいたのだ。それゆえ、魂は見えないけれど、依然として存在しているのだと信じるのだ。もし魂が名声を保持するために何もしないとしたら、輝かしい人々が持っている名誉は死後瞬く間に消えてしまうのだ。私自身のことを言えば、魂は死ぬ運命にある体の中にいるときは生きていて、体から離れたときに死ぬと考えたことはない。魂の意識は無意識の住まいから放逐されると無くなる。しかし、肉体との連携から解放されるその時に、魂はまさに存在するのだ。さらに、人間の骨組みが死によって崩壊するとき、その部分はどうなると思うか。他の存在の材料はどこへ移されるかは目に見える。つまり、それらは生まれた源へ帰って行くのだ。存在も消滅もしない魂だけが私たちの目に見えるのだ。」<sup>8)</sup>

「キュロスはこういった次第だが、つぎに進む。スキピオ、誰も私を納得させてくれないのだが、君の立派な父あるいは祖先であるパウルスやアフリカヌスあるいはアフリカヌスの父や叔父または私が名を上げる必要のないその他大勢の優秀な人たちは、来世を手にするのは自分たちの権利だということに気づかずに、子孫に記憶される多くの行為を成し遂げたのだ。自分のことを語る老人の特権を私に認めてくれるなら、もし私が私の生命を

7) キケロ『老齡について』21-23

8) クセノフォン『キュロスの教育』8.7.17-19

定めている境界が私の栄光に終止符を打つと考えているとしたら、自宅でも戸外で退屈な日々の労苦に耐えていると思うか。労働から解放され、競争もなく安楽かつ静かに日々を過ごしたほうが望ましくはないか。どういうわけか分からないが、常に魂が首をもたげ、死んだら魂は永遠に生きるのだという期待から、来世を心待ちにするのだ。もし精神が不死だということが真実でなければ、とりわけ、最も大切な魂は栄光に対する強烈な欲求を抱かないに違いない。

最も賢明な人たちがこの上なく冷静に、無知な人たちがこの上ない不安を抱えて死を迎える原因はこれ以外に何があるか。非常に広範囲にわたる視野を持っている精神はより幸福な状態に移動しているのだと予見し、視野の狭量な精神はそれに気づいていないのだ。私としては、私が称え愛したあなたの先祖に会えるという希望で心が一杯なのだ。そして、私が知らなかった優秀な人たちだけでなく、私が耳にし、読んだことがある人たち、そしてまた私が書いたことのある人たちにも会いたいと心から願っているのだ。私はこの楽しい旅をやめさせられたくない。この人ごみ、この夥しい汚れから逃れ、喜びに満ちた霊の神々しい集まりに迎え入れられたらなんと幸せなことだろう。息子よ、私自身の葬式に参列すべきだったが、私が名前を上げた偉大な人たちだけでなく、カトーのもとへ行けたらどんなに幸せなことか。私が葬式を取り仕切った人の魂は私を見捨てず、ちらっと振り向いたように思えたのだが、私が後に続いて行くあの住まいに行ってしまったのだ。私は勇気を持って悲しみに耐えているように見えるが、まもなく再会し、二度と切り離されることがないと確信して自らを慰めたのだ。]

草々

上記の手紙でみなさんの要望に応え、第210号の魂の不滅、第375号の悲しみに暮れる美德、第525号の夫婦の愛、その他末尾に署名のない素晴らしい手紙2、3本の著者である紳士が、オルペウスの断章に触発されて、「世界の創造者への頌歌」というタイトルの高尚な詩を出版なさるとお聞きになれば、わが読者は大層喜ばれることは間違いないと思います<sup>9)</sup>。

第538号 1712年11月17日（月曜日）

【アディソン】

限度を越えて仕事を紡ぐ。(ホラティウス)<sup>1)</sup>

驚きは話の生命ですので、話で人を喜ばせようとする人は誰でもこれを目指します。滑らかな話しぶりや優雅な言葉の選択や快い配置はすべて、話を飾る美点ですが、長時間注目を浴びたり、突然激しい感情に襲われたり、急にユーモアを伴う笑いを誘ったりするものではありません。私は時々、このときの精神は急いでいい席を探す旅人のようなものだ

9) 第540号でこの詩が間もなく出版されると述べられている。

1) ホラティウス『諷刺』2.1.1-2

と思うことがあります。整然とした散歩道の楽しみは認めますが、一目で端から端までのあらゆる美しさが目に入って来ると、さらに歩かされるとなれば、嫌になってしまいます。

しかしながら、話に驚きが伴って来ると、うけがよくなります。うまく評判を呼ぶこともあります。台無しにしてしまうこともあります。真実を語って感動を与えないで、真実を踏みにじってしまう人たちがいます。こういった人々は蓋然性の一線を見捨て、通常の道から外れているのです。自然哲学に反する馬鹿げたこととか遭遇したことの無いような独りよがりの不思議なことを押し付けることで、聞き手の目を見開かせることだけに執心します。

私はたまたま同席した人たちから以上のようなことを考えることになりました。偽りの驚きを提供する人たちが長々と喋るのにふさわしいテーマは「反感」でした。伝統的な歴史について存分に喋るのが大好きな人たちが顔を並べていました。そのうちの何名かは、不快を受け入れがちな気孔を持った体に、チーズの臭気が与える奇跡的な力について語りました。また別の人たちからは、チーズの味は駄目だが見るのは大丈夫だという話がありました。この根拠は乳母たちの母乳にあったのです。またある人たちは、チーズを丸のまま肉と組み合わせると胃がどうしても受け付けられないこと、そして、切って形が変わると無性に欲しくなるのだということを根拠もなく喋りました。つぎに彼らの話題は鰻からパースニップス<sup>2)</sup>などの嫌な物へと移って行きました。そして徐々に心が高ぶって全員愛想よくなっていました。そして夕食が運び込まれて来る時間になると、私たちは夕食が出て来る前に、何が出るのかと尋ね、嫌な物でなければいいと願いました。全員が席に着くと、私たちの教養によって話題は食べ物からほかの嫌な物へと変わりました。そして、この種の会話の邪魔をする忌々しい猫が話題を独占することになりました。ある人は猫を見て苛立っていましたし、またある人は遠くにある棚の中に猫が隠れているのが臭いで分かっていたのです。この一連の話の有終の美を飾る人がこれまでに猫で卒倒した回数を割り出しました。最後に彼は、猫に対する私の揺るがない嫌悪にみなさんご納得いただくために、反論の余地のない具体例をあげたい、と言います。私がそれまで行ったことのないロンドンのある通りを歩いていたとき、なぜかは分かりませんが、全身が気だるく気が遠くなるように感じたのです。そのとき、偶然上を見上げますと、猫の絵が描かれた看板の下を歩いていることに気づいたのです。

この突飛な話によって、それまでの話は中断しました。疑っているために黙った人もいましたし、それなりに圧倒されたために黙っている人もいました。その結果、この紳士はこの機に乗じて私たちにその意見を押し付け、みんなをからかっているというよりはむしろ自分をさらけ出しているのだと思わせたのです。

この間私は語られることの一部始終を信じていなかったわけではないのだと率直に認めなくてはなりません。でも、中には邪魔物を出来るだけ遠くに放り投げようと努力してい

---

2) パースニップスはセリ的一种。

る人たちがいると思いました。つまり、猫がしばらくの間射程目標となっていたのです。そして最後に、猫と看板の友が限度を越えてそれ以上に投げ出したのでした。

そのとき、私は、この話の受け止められ方を考えました。そしてもし彼が自分に不利になるほど必要以上に喋らなかつたら、単なる冗談として受け止められていた可能性があったに違いないと思いました。そこで、あることをきっぱりと否定するのは穏当でないと考えたとき、一般に育ちのよい人たちがそれを修正する方法は二つあると考えました。

その一つは沈黙を決め込むことです。この方法は自分のためにしないよう忠告します。この方法には、ある人が馬車を猛スピードで走らせており、ぶつける以外には止める手立てがないとき、いさかいを避ける慎重さという効果がありますが、ごくまれには思いがけなく信じる欠点となることがあります。大多数の人間は高圧的なことを信じるほど無知ではありません。ある人の権威あるいは危険を知らせる警告によって、私たちが私たちの意見を抑えるとしても、権威にしても警告にしても私たちの考えを抑えるだけの力にはなりません。もしありそうもないことで仲間を面白がらせようとする人が少なくとも相手の心の中を覗き見ることが可能であれば、みんなに押し付けようと思っているとき、彼らは自分たちの分別が軽く見られていると考えていること、そして、そのため自分が評価されていないことに気づくに違いありません。彼らを困らせて得意がろうとする企てはいさかいの原因となり、彼らの軽蔑と冷淡さが彼に対する直接的な罰となります。実際、（さらに進むと）沈黙あるいは投げやりな冷淡さが対立よりも深刻な傷つける手段となります。なぜなら、対立というものは、心の中に相手に対する何らかの敬意がある、つまり、相手が異議を唱えるに値すると考えているのですが、相手に対する一種の寛大な気持ちを伴った怒りから生じるからです。一方、沈黙や投げやりな冷淡さというものは、相手があまりにも卑劣で考慮することが出来ないことを示す軽蔑が入り混じった怒りから生じます。

偽りの驚きということを正すために世間の人たちが取っているもう一つの方法は、自分の弓でそういった話し手より巧みに射る、つまり、もっとありそうもないことを並べ立て、自分は見抜かれていると分からせるようなやり方で証拠を示すことです。私はかつてうまくあしらわれ恐怖感にまでいたった話を聞いたことがあります。ある人が難破の恐怖に襲われて一夜にして髪の毛が白くなった友人の話をしたのでした。この話に触発された別の人が、自らの知識をひけらかして、同種の例は考えられないほど多数に上るのだと言い始めました。彼が変化をもたらすために、その事例の根拠にそれぞれ異なった原因を上げたとき、その話を聞いていると、最後には恐怖感を覚える人は誰もが、一生逃れることは不可能と思えるほどになりました。その人の話がここまで進むと、中には関心がなくなったり彼に口答えしなくなったりする人がいました。そこで、厳格な面持ちで有名な昔の話を知っている人が、みんなを非難し、何事でも恐怖を感じると髪の毛は白くなることのあるのだ、なにしろ私は恐怖で髪が白くなった人を知っているのだから、と言って納得させました。これで彼は話を止め、みんなを安心させました。私たちは愚かにも品位を高めるために用いるのですが、恥じ入らせるためにもこれと同じ方法が用いられます。自分が目立つのは一種の擬態であり、それによって気取ったふりをするのです。あなたが自分とい

かに似通っているかを思い出させるために、また、自分は信じているという責めをうけないことをあなたに分からせるために、その人は人前で滑稽に思われます。このとき、あなたは喋ったことに良心的な恥辱を覚えて、直ちに啞然となります。人々が抱いているはずの感情を知って、あなたが内心深く後悔するのもこのときなのです。要するに、あなたは自分の意に反しているわけです。みんなの笑いによって、あなたは不利になります。非難している人たちが、あなたが自分を犠牲にして与えた勝利感を味わうのもあなたのお陰です。あなたが傷つけた真実は、あなたの話をありのまま繰り返すことによって、人々の気晴らしのために頻繁に供するとき、あなたに仕返しとして返って来るのです。

### 前略

先日、セント・パンクラス教会の境内を散歩していたとき、墓碑銘について触れておられた貴紙について考えました<sup>3)</sup>。つぎの墓碑銘には読者のみなさんにお伝えする価値のある考えがあると考えたわけです。

ここに無垢で美しい人が眠る、この人の生命は  
早すぎる死によって奪われた。それゆえ、  
彼女は悲しみが分かり始めたそのとき亡くなったのだ、  
罪が分かるまでに。  
死、これは罪と悲しみを防ぐのだが、  
有益に使われた生命に対するつぎなる祝福となるのだ。

草々

### 第539号 1712年11月18日(火曜日)

不規則変化するこれら名詞をどう呼べばいいのか。

(リリー)<sup>1)</sup>

### 観察者様

私は財産も家族もある若い寡婦で、つい今しがた町にやって来たところです。すでに町には私に会いにやって来るお上品な方々が大勢いらっしゃいます。私に会ったこともないのに、希望でいらいらしている人も、不安で落ち着かない人もいます。そこで、貴方にお願ひですが、こういった厚かましい人々を、田舎の知人に接したのと同様になれなれしくあしらったらよいものかどうか教えていただきたいのです。私としましては、貴方のお許しを得て、男たらしの汚名を受けずに会えることを望んでいます。私は誰のものにもならないと宣言していますので、自分の手で私の決意を破らせることが出来ると自惚れている人々を侮辱する自由が与えられてしかるべきだと思います。戦う積りのない人々が頻繁に通う剣の使い方を教える学校があります。心臓を射ようとするこの無益な方法こそ、私が

3) 第518号参照。セント・パンクラス教会については第452号参照。

1) リリーのラテン語文法。

気晴らしを考えた遊びなのです。口説き落とすと触れこんでいる人は、フェンシングの学校へ喧嘩を吹っ掛けに来る人のようにあしらうことにします。こういう次第ですので、私に自然かつわざとらしい目や表情や身振りを自由に駆使させていただく力を授けてくださることを望みます。口約束はしませんが、流し目や仕草を思い上がって解釈する人には一切情けをかけない積りです。私はとりわけ流し目には熟達しています。突然まともに見るかと思えばまたすぐ流し目に戻すことが出来ます。私たち田舎の美人は、貴方が宮廷や町で見かけるよりも巧みにこれが出来ます。おまけに、私は手管を隠してまったく意に介していないといった表情を浮かべることが出来ます。私はとても上手に踊れますが、自然に会得したのですが、よろめいた歩き方が出来ます。これによって私は餌食にしやすいと思われれます。教えを受けた魅力を発揮するまでもなく、人は私を追い掛けて来るわけです。どうかこの手紙を活字にしてください。そうすれば必ずや裕福な寡婦の追跡が始まります。今遭遇している殿方の途方もない力と尊大さを削減するために、私のような女性のみなさんのためにも、時々、貴方に助言をいただくためにご連絡をしたいと思います。

草々  
レリクタ・ラブリー

#### 親愛なる観察者様

貴殿は高潔な愛を大切にすると公言なさっておられます。そこで、この手紙への迅速な返事をお願いする次第です。この手紙は、ほかでもありませんが、ある両親の厳格さを世間のみなさんにお示ししています。この両親は、結婚するには早すぎるという理由だけで、18歳の慎み深い娘の結婚を3年先まで引き延ばしたいと考えているのです。お金ということに関しては、小生の境遇は何不自由ありませんので、強欲とか野望といった低劣な動機で求婚していると勘繰られることはあり得ません。かりに天真爛漫さと機知と美しさがこの上ない魅力と一体になるとすれば、彼女にはそのすべてが備わっています。貴殿がこの件について少し詳しく説明して、現在妨げられている私たちの気持ちが変わるかもしれない、つまり、現在の情熱を享受することを延期することについて話し合っている間に、愛情の向く対象を変えるかもしれないというのは、彼女あるいは小生個人の欠陥でなく、人間性それ自体の欠陥から生じるのだと彼女の両親に助言していただきたいと思います。これはとても論じにくいテーマです。しかし、若干のヒントさえ与えられれば、当事者には幸福を促進する何らかの考えが浮かんでくるものと期待しています。可能性はあります。そこで、小生は不謹慎という汚名を受けないで、誠心誠意彼女を愛していると言えると思います。そうなのです、この延期は小生にとってだけでなく、彼女にとっても痛ましいことになる可能性があるのです。痛みが大きければ、彼女は厳格なルールのせいで、不満を取り除くことさえ出来なくなってしまいます。貴殿がこの点で小生にご尽力していただければ、うまく行きます。結婚式ではお席を用意し、観察者としての威厳にふさわしい待遇をさせていただくことをお約束します。

敬具  
ユースタス

## 前略

昨日、私はまるでつい今しがた町にやって来たように見える頸垂帯<sup>2)</sup>をつけた若い紳士が悪魔について語っているのを聞きました。このテーマは、ティロットソン大主教が2つ折り本の説教で実に気高く論じておられます<sup>3)</sup>。この紳士が聖書を示し、説教の真意を少し語り始めるとすぐに、彼はサー・ロジャーの礼拝堂付牧師の一人だったのではと大きな期待を持ちました。私は大主教の素晴らしい説教のことを思い起こしましたので、それを繰り返し聞くことで私の安息日のひと時は有意義に使われることになると思いました。しかし、観察者様、残念なことに、私にはその意図が分からないのですが、この牧師は大主教の説教を取り上げたただけでした。少なくとも20回は読んだと確信している私でさえ、この説教をどのように理解していいか分からなかったのです。そして、私はこの牧師が何を言いたいのか分からず途方に暮れたのです。確かに、若い牧師はとても公正に説教のすべての項目と細目を伝えました。さらに言えば、そこには立派な考えはなかったのだと思います。だが、この紳士は耳触りのいいことをいろいろ付け加えました。彼は説教の一説を伝えることは出来ませんでした。どうやらそこに人々を説諭するためというよりはむしろ自身の聡明さ示すようなことを持ち込んだようでした。要するに、彼は私を当惑させるために付言し短縮したのです。その結果、(正直言って、このような聖なる場所で考えるべきでないことですが)、この若者のひらめきは、シェイクスピアやジョンソンの気高い芝居を繕うブロックやペンケスマン<sup>4)</sup>と同じく非難するに値するという思いを抑えることが出来ませんでした。何卒、この件を貴殿の念頭に入れていただきたいと思います。もし私たちがこういった偉い人々の仕事を受け入れざるを得ないとしたら、余計なことは付け加えずありのままを伝えるようにしてください。そうすれば、私たちが家で家族に読んで聞かせるとき、教会で聞いたことがうまく思い出されます。

草々

---

2) 頸垂帯は祈祷の際に牧師が着用する黒の長いスカーフ。第21号参照。

3) 1693/4年2月25日、ホワイトホールで国王、女王の前で行った説教。

4) スティールはこの二人の役者はボーモントとフレッチャーに手を貸すために芝居の中で自分の言葉を挿入したとコメントしている(タトラー紙第89号)。